

科学者委員会学術誌問題検討分科会（第2回）議事録

日時：平成21年4月27日（金）13:00～15:00
場所：日本学術会議 5-C（1）会議室
出席者：浅島委員長，山本（眞）副委員長，玉尾幹事，西郷幹事，植田委員，
大垣委員，北島委員，鈴木委員，田口委員，山本（正）委員
オブザーバー：林和弘氏（日本化学会），永井裕子氏（日本動物学会），
谷藤幹子氏（物質・材料研究機構），木村優氏（東京大学附属図書館）
事務局：渡邊参事官，兼平専門職，鳥生専門職，中島調査員 他
議題：

- 1) 出席者紹介
- 2) 前回議事要旨（案）の確認
- 3) 学術情報へのアクセスの平等化について
- 4) 国内発行の英文誌発行の必要性、発刊体制について
- 5) 今後の進め方について
- 6) その他

配布資料：

- 資料1 前回議事要旨（案）
- 資料 WG1-1 学術情報へのアクセスの平等化 WG 会議事項
WG1-2 学術情報へのアクセスの平等化 WG 会議資料
- 資料 WG2-0 国内発行の英文誌発行の必要性、発刊体制について WG
検討状況報告
- WG2-1 施策提案の前提となる提言
WG2-2 日本発の情報発信の存在と意義づけについて
WG2-3 施策提案の前提となる提言の図式化
WG2-4 KOREA モデルについて
（学術団体のあり方に関する調査研究-中間報告（記録）-抜粋）
- 資料2 今後の進め方について（案）

参考1 委員名簿

参考2 学術誌問題の論点について（第1回分科会資料4）

参考 WG2-1 物理系学会年史

WG2-2 日本の理工系学会と英文ジャーナル

WG2-3 SPARC Japan Seminar 2008

物理系ピアレビュージャーナルとオープンアクセス

議事

1. 出席者自己紹介

浅島委員長の司会の下、出席者およびオブザーバーが自己紹介を行なった。

2. 前回議事要旨（案）の確認

浅島委員長より、前回議事要旨について確認を求められ、異議なく了承された。

3. 本日の議論の進め方について

浅島委員長より、前回会合後、「学術情報へのアクセスの平等化」については西郷幹事が、「国内発行の英文誌発行の必要性、発刊体制」については玉尾幹事が中心となって関係者との検討を進めてきたので、本日は、それぞれのグループから検討状況を報告してもらい、委員全員で審議するという形で進めたい、との提案があり、了承された。

4. 「学術情報へのアクセスの平等化」について

西郷幹事から、資料 WG 1-1 および WG 1-2 に基づき、「学術情報へのアクセスの平等化」についての検討状況の説明があった。

説明について、以下の意見が出された。

- ・理工系ばかりでなく、人文系、社会系、医学系などの分野も考慮した提言にすべきである。
- ・私立大学も考慮すべきである。→ 資料 WG 1-1 にあるように考慮中であるとの回答があった。
- ・大学ばかりでなく、独立行政法人の研究所も考慮すべきである。
- ・「日本発ジャーナル」の日本発は、印刷・販売まで行なうことを意味しているのか。編集までも良いのではないか。割付以降を商業出版社に委ねても日本発ではないか。
- ・「国内発行の英文誌発行の必要性、発刊体制の確立」と「学術情報へのアクセスの平等化」の間に横たわる矛盾を指摘・整理すべきである。

引き続き、浅島委員長より、

- ① 審議する課題は、何を何処までするか、出口は何か、が重要であるので、提言の策定と実施フォローアップとしたい。
- ② スケジュールとしては、2009 年 10 月総会までに中間報告（素案）作成、その後にパブリックコメント収集、2010 年 4 月総会までに最終報告作成としたい。
- ③ 私立大学等からも議論に参加して頂くこととしたい。
- ④ 参加して頂く形態（委員かオブザーバーか）については、分科会役員（委員長、副委員長、幹事）で別途協議し、必要に応じて幹事会に審議（特任連携会員になって頂く場合）をお願いするという事で、委員長に一任して頂きたい。

との提案があり、了承された。

5. 「国内発行の英文誌発行の必要性，発刊体制」について

玉尾幹事から，資料 WG 2-0 および WG 2-1 に基づき，「国内発行の英文誌発行の必要性，発刊体制」についての検討状況の概略説明があった。引き続き，資料 WG 2-2 に基づき植田委員，資料 WG 2-1 および WG 2-3 に基づき林オブザーバーそれぞれから，詳細説明があった。

説明について，以下の意見が出された。

- ・理工系ばかりでなく，人文系，社会系，医学系などの分野も考慮した提言にすべきである。
- ・和文誌を含めた対応が必要である。
- ・学術雑誌出版に関わる専門職集団の量・質の確保策を織り込むべきである。
- ・成功例に潜む問題点の抽出も重要である。
- ・日本発の文化という立場を打ち出すことも考えられる。
- ・国からの支援を得ている韓国，商業出版社に対してエディター 3 名を加えることと多額の払い戻しを要求することを実現している中国の方式を取り入れることはできないか。
- ・統計学者との連携不足，コーディネータの育成不足等の理由により日本では臨床医学研究が育っていないが，臨床医学研究の公表は重要である。この分野の研究成果を発信できないか。
- ・人社系の場合，一般に日本のことを日本人が書いた論文は需要が高い。経済学や社会学等この点で成功を納めている分野もある。一方で，日本史や民俗学などは需要に十分応えられていないが，英語で論文を書くという発想があまりないようだ。
- ・学術情報（雑誌，書籍）の紙媒体と電子媒体に対する考え方は，分野，世代，関心事の内容等により異なるので，これを調査する必要があるのではないか。
- ・企画・渉外，編集・制作，営業・広報・事業運営の 3 つは，学協会にとって切り離せないものではないか。→ 事業効率の面から，各学協会の主体性を保持した編集・制作の統合などがあり得るのではないかと回答があった。
- ・知識の爆発的拡大，グローバル化の時代に対応できる案であって欲しい。
- ・日本の学協会と限るのか。日本人研究者がリードする国際学協会でもよいのではないか。
- ・参考 WG 2-2 「日本の学会と英文ジャーナル」には，人文系，社会系，医学系などは入っていない。→ 「日本の理工系学会と英文ジャーナル」と修正したい。

引き続き，浅島委員長より，

- ① 資料 WG 2-3 を参考にし，人文系，社会系，医学系など，委員の専門分野におけるたたき台相当のものを作成して頂きたい。
- ② 西郷幹事，玉尾幹事には，各系の情報を収集し，たたき台を作成して頂きたい。

との提案があり，了承された。また，永井オブザーバーから，人文系，社会系のたたき台相当作成に参加したいとの希望が出され，了承された。

6. 今後の進め方について

浅島委員長より、

- ① 10月の総会までに3回程度分科会を開催し、素案を作成したい。
 - ② 報告書作成の後、提言等の実現に向けて引き続き検討していくことが大事であり、このことも本分科会活動の範囲内としたい。
 - ③ 本日の分科会での意見も踏まえて、西郷幹事、玉尾幹事はそれぞれの論点について整理し、オブザーバー等との議論を深め、6月開催予定の次回分科会までに、10月の総会に向けた素案のたたき台を作成して頂きたい。
 - ④ 次回はそのたたき台を基に全員で議論したい。
- との提案があり、了承された。

7. 今後の予定について

浅島委員長より、次回以降の分科会は6月、8月、9月に開催したいとの提案があり、了承された。引き続き日時の調整を行い、以下のように決定した。

第3回	6月10日	10:00-12:00
第4回	8月20日	15:00-17:00
第5回	9月14日	17:00-19:00

以上